平成２３年６月２７日　№３５

総合学習センターだより

発行：相模原市立総合学習センター
〒252-0239 相模原市中央区中央３丁目 12 番 10 号
ＴＥＬ０４２（７５６）３４４３
ＦＡＸ０４２（７５８）８１４６
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.sagamihara-kng.ed.jp

つながりのある地域社会へ

総合学習センター所長　鈴木康仁

総合学習センターは、平成１３年の開所から１０年が経過しました。これまで市民の皆様の生涯学習の充実を図ることを目的とし、「市民の学習支援」や「学校教育・社会教育の支援」、さらには「学社連携・協働」を目指して取り組んできました。その結果、年々多くの市民の皆様にご活用いただくようになりました。かつて「学習」や「勉強」という言葉は、学校という場所で、しかも人生の一時期に行われるものというイメージがありましたが、現在では「いつでも、どこでも、だれでも、だれとでも」というように学ぶことができます。これからも市民利用の施設として学習情報の提供や学習機会の提供を行ってまいりますので、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

さて前述したように、私たちは生涯にわたって様々なことを学びながら生きています。社会や人から知識を受け継ぐということもあれば、自然界から教えられることもたくさんあります。

そして、それらから学んだ時、私たちは立ち止まって考え、社会のあり方や環境について話し合い、より良く生きようとしてきました。様々な課題や困難に直面した時も、私たちはそれらを乗り越えようと努力してきました。

３．１１の大地震は、私たちにこれまでに経験のない恐怖と不安を与えました。多くの命が奪われ、被災地の惨状は想像を絶するものでした。また被災地から遠く離れた場所でも、地震の影響で家族との連絡が取れなかったり、交通機関がストップして帰宅できなかったりしました。さらには大震災後も停電やスーパーマーケットの品薄、ガソリン不足がおき、これから日本という国はどうなってしまうのだろうと誰もが心配しました。

毎日のように続いた余震は、子どもたちに「地球が私たちをいじめている」と思わせ、地震を怖がる子どもが増えたそうです。でも地球にとっては自然の現象で、宇宙の視点で見れば、地球という星が自然に活動しているということです。

気仙沼市の中学校で行われた卒業式の答辞では、感動的な言葉が述べられました。「**自然の猛威の前では人間の力は余りにも無力**」で、自分たちの大切なものが奪われて悔しいが、「**天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが私たちの使命です**」という内容でした。災害の惨禍のまっただ中でも、力強く生きていこうとする立派な答辞に驚きました。そして、15 才の少年の凛々しい決意の中に、日本人としての誇りを感じました。

今回の大きな犠牲をともなった災害により、私たちの生活は大きく変わりました。誰もが危機感をもち、お互いに助け合おうとする気持ちが大きくなりました。被災地の様子をテレビ等で見ると、仮設住宅のとなりに仮設スーパーができ、避難所生活しているお店の人が避難所生活している人のために必要な品揃えをしようと笑顔と涙で頑張っていました。このことにも勇気をもらいました。すごいです。

被災地だけでなく、近年忘れられていた、お互いに助け合っていこうとする協調の精神が日本人によみがえってきたように思います。まさに成果主義が生んだ競争社会から協調社会への転換が今求められているのではないでしょうか。キーワードは「つながり」です。つながりのある地域社会をつくるため当センターでも事業の充実を図ってまいります。